

月刊 やちまなこ

2024. 9.15 発行

No.322

9月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



ザ・ロイヤルエクスプレス [HOKKIDO 5thANNIVERSARY CRUISE]

今年の夏は天候不順が続き、台風 10 号による影響もあって多くの地域で被害が出ました。釧路湿原では夏の花が風雨に晒されて早く散り、台風が過ぎると、なんとも淋しい光景が広がって、既に秋の臭いが漂いはじめている。

9月7日（土）には、今年の釧路湿原を通過する最後のザ・ロイヤルエクスプレスが通過した。北海道ツアー5周年を記念したこのツアーは、千歳での記念コンサートのあと、千歳－白糠－釧路－川湯（網走）－北見－遠軽－旭川－富良野－旭川－札幌と周回をしながら、それぞれの風土や料理を満喫できる、豪勢な旅程を経験できたようです。

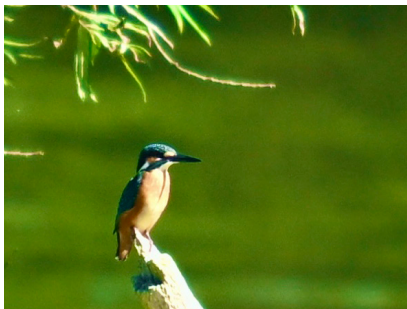
いつかは搭乘してみたい観光列車のひとつである。



塘路フィールドノート【8/15～9/14】

【野鳥】

夏鳥のシーズンもあとわずか。タンチョウも子育てを終えて雛は成鳥とほぼ同じ大きさになってきた模様。そろそろ釧路湿原にも冬鳥が渡ってくるだろう。水鳥の賑やかな湖面が待ち遠しい。



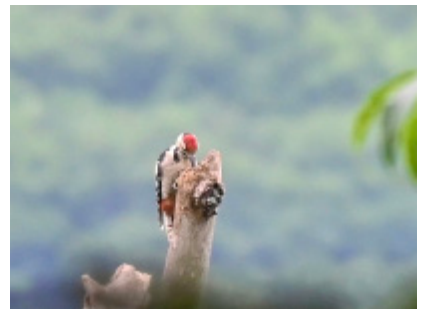
カワセミ (釧路川)

川から突き出た木の上で、獲物を探してダイビングを繰り返していた。カワセミ科



タンチョウ (クチャロ線)

今年も子育てがほぼ終わった模様。幼鳥も立派に育ち家族団らんの季節。ツル科



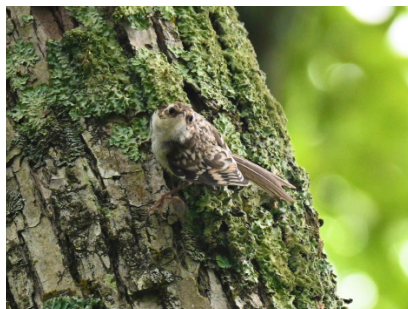
アカゲラ (塘路湖畔)

アカゲラの雄は後頭部のみ赤いが、幼鳥期は頭頂まで赤い。写真は幼鳥。キツキ科



アオサギ (シラルトロ湖)

水辺に突き出た倒木の上から一点を凝視し、小魚などの獲物を探していた。サギ科。



キバシリ (塘路湖畔)

「ツリリ」という声が聴こえたら大抵現れる。尾はキツキのように2つ分かれる。キバシリ科



コゲラ (塘路湖畔)

小さなキツキ。一心不乱に樹皮下の虫を探して食べていた。キバシリに似る。キツキ科

【植物・菌類】

夏の花は、台風の影響で早く終わってしまった印象です。不安定な天気になるとキノコなどの菌類が元気になるのですが、今年はこちらも今一つ元気がなかったようです。



変種エゾベニヒツグサ (蝦夷紅末草)
午後になると水上に咲くスイレンに似た白い花。花言葉「純粋な心」スイレン科



ツリガネニンジン (釣鐘人參)
今年は多く見掛けた印象。食べる人もいるとか。花言葉は「誠実」。キキョウ科



ギンリョウソウ (銀竜草)
菌類と共生する腐生植物。キノコを探していると林床でよく出くわす。ツツジ科



エゾトリカブト (蝦夷烏兜)
日本三大毒草の1つ。烏帽子のような紫の花が特徴。花言葉「騎士道」キンポウゲ科



コウライテンナンショウ (高麗天南星)
マムシグサの秋の姿。この時期ツートンカラーの実が観て楽しい。花言葉「壮大」サトイモ科



アカヤマドリタケ (赤山鳥茸)
傘が開くと独特の裂け目が目立つ。成熟すると非常に大きくなるキノコ。イグチ科



ミドリニガイグチ (緑苦猪口)
黄土色の傘が格好いいニガイグチの一種。名前の由来は苦くて食べられないからだという。食不適。イグチ科ニガイグチ属



ニカワホウキタケ (鵝筴茸)
ホウキタケの仲間の中では美しいキノコ。これはまだ幼菌でこれからホウキのように繁茂する。食毒不明。アカキクラゲ科



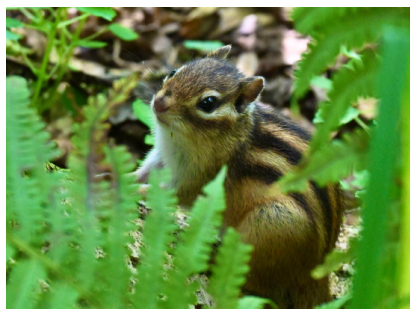
ハナビラタケ (花弁茸)
トドマツ林の林床に生える複雑な造形のキノコ。優秀な食菌。ハナビラタケ科。

【哺乳類・昆虫】

ヒグマ騒動で湖畔のエゾシカは一時非常に少なかった印象ですが、9月に入り幾分「落とし物」が増えてきたようです。子供の地域交流ツアーでは狭い行動範囲だったので、国内移入種のカブトムシに随分助けられました。



キタキツネ (スガワラ地区)
砂利道を進むと近づいてくる人馴れした個体。人が餌を与えているのだろう。イヌ科



シマリス (釧路湿原)
近づくまでお互いに気づけなかったため、茂みの中でじっとこちらを伺っていた。リス科



カブトムシ (塘路湖畔)
スズメバチも意に介さず樹液を吸っていた。ちびっ子からの人気は絶大。コガネムシ科

◎夏から秋に発生する毒キノコを覚えよう

夏から秋と言えばキノコの季節ですね。キノコは森のコーディネーターとも呼ばれ、樹の根に巻き付いて樹では作れない栄養素を渡して逆にキノコが必要とする栄養を貰うなど共生関係を築くものも少なくありません。樹にとっては良いパートナーなのですが、人が摂取すると命に係わるものもあります。以下に図示したキノコは里山など身近な環境にもよく生えているもので、危険な毒キノコです。今年はドクツルタケを誤食して亡くなった方もおられるようなので改めてご紹介しておきます。食する際は、必ず専門家に聴いてからにしましょう。



ドクツルタケ（猛毒）



フクロツルタケ（猛毒）



タマゴタケモドキ（猛毒）



ベニテングタケ（毒）

10月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

シマフクロウを知ってみよう

〔日 時〕 10月5日（土）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

晩秋の湿原 野鳥観察会

〔日 時〕 10月26日（土）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 塘路湖エコミュージアムセンター

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

ザリガニウォッチ2～ニホンザリガニ編～

〔日 時〕 10月6日（日）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

秋の紅葉を見に行こう

〔日 時〕 10月20日（日）10時～12時

〔定 員・参加料〕 15名 無料

〔開催場所〕 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで
(0154-65-2323)

◆日出・日入時間 8/15(4:27,18:25). 8/31(4:45,17:59).9/14(5:00,17:34)

～ 指導員のひとり言 ～

■ 今年の夏は、本州で40度に迫る暑い夏だったようですが、塘路湖周辺は不安定な天候が続いて、それほど暑かったという印象がありませんでした。

塘路湖では8月上旬からヒグマの目撃情報の続き、今でも多くのイベントや観光に影響を及ぼしています。それが少し落ち着いたかと思えば、今度は台風10号の影響で、観光列車ノロッコ号が運休になるなど観光にも影響を及ぼし、日本各地では死傷者が出てしまいました。秋には平穏が戻ることを祈ります。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL：015-487-3003 FAX：015-487-3004

E-mail：emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram [torokoemc](https://www.instagram.com/torokoemc)

開館時間：10：00～17：00

（11～3月：16：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料